第６学年　国語科学習指導案

１　単元名　　言葉を選んで、短歌を作ろう
「たのしみは」

２　単元について

（１）教材観

本単元では、「たのしみ」をテーマに、短歌の形式にのっとり言葉を吟味していく。それを友達と交流することで言葉の使い方や語順について関心をもち、自分の表現の良さについても目を向けることができる教材である。

授業の中では、自分や友達が日常の中で感じている、ささやかではあるが、実は幸福な気持ちを取り上げることになる。「あの子の言っているたのしみ、私にも分かるな。」「あまり話したことがなかったけど、あの子はそういうことをたのしみと感じるんだな。」というように、作品の交流を通し、児童の間に、お互いに対する肯定的な気持ちを生むことができる。

本単元は第５学年及び第６学年「Ｂ　書くこと」の指導事項

【単元の関連と発展】

・書く

5年

日常を十七音で

・表現を工夫して，俳句を作る。

6年

たのしみは

・言葉を選んで、短歌を作る。

私たちにできること

・提案の理由と内容、効果を明確にして文章を構成する。

日本文化を発信しよう

・伝えたいことに合わせた構成を考える。

大切にしたい言葉

・考えたことや、感じたことにふさわしい言葉を選ぶ。

思い出を言葉に

・伝えたいことを明確にし、形式や表現を選ぶ。

中学１年

・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。

（２）児童観

児童は、これまで５年生の単元である「日常を十七音で」や教科「日本語」の授業で俳句の学習を行っているので、「五・七・五」のリズムには慣れている。しかし、表現を工夫した句を読む経験が少なく、苦手と感じている児童がいる。また、書く活動に対して苦手と感じている児童の中には、考えていることを正確に文章で書き表すことができない児童も少なくない。

書くことについては、日常的に国語の授業や家庭学習で、１人１台端末を使用した日記や視写に意欲的に取り組んでいる。また、スキルタイムでは、佐賀新聞社の有明抄の視写に取り組み、その文章

にタイトルを付けたり、文章に対する自分の考えを書いたりしている。書くことに対して苦手意識がある児童がいるものの、書く楽しみを感じながら課題に取り組む姿も多く見られる。

（3）指導観

本単元では、作った短歌の発表会を行い、佐賀県文学賞短歌の部に出品することを単元の目標とすることで、短歌を作ることに対しての関心をもたせる。

第一次では、児童にとって「たのしみ」としている場面を考えさせる。１人１台端末のアプリであるジャムボード機能を使用することで画面を全体で共有しながら作業させたい。

第二次は、１人１台端末のアプリであるスライドを全員で共有して短歌を作らせる。そうすることで、短歌を作る際に、手が止まっている児童には、他の児童の作品を参考にできるようにする。作り終わった児童も友達の作品を見て更に工夫を加えさせる。友達タイムでは、お互いの短歌を読み合うことで、リズムを整えたり工夫を加えたりと、言葉を選びより「たのしみ」が伝わる短歌に仕上げることができるようにする。

第三次は、友達と短歌を読み合う活動を行う。お互いの短歌を読み合い、よさを伝え合うことで様々な表現の仕方や言葉の使い方があることに気付かせたい。

本単元では、単元を通して１人１台端末を活用することで、書くことや書いた文章を推敲し書き直すことに苦手意識がある児童も興味をもって意欲的に活動することができるようにする。また、全員の作品を簡単に共有することができるので、色んな表現に触れさせ、表現を工夫する意欲につなげたい。

3　単元の目標及び評価規準

（1）　単元の目標

○構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えることができる。

（2）　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「書くこと」において、構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えている。 ②「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。	①書き表し方に着目して表現を整えることに粘り強く取り組み、今までの学習をいかして短歌を作ろうとしている。

4　単元の指導計画（全３時間）

次	時	主な学習活動	指導及び支援	評価規準
一	1	○「たのしみ」をテーマに、これまでの経験を思い出し、短歌にしたい場面を決める。	○生活の中のさまざまな場面から「たのしみ」を探すように促す。	【主体的①】 短歌作りに関心をもち、自分の生活の中から「たのしみ」を探そうとしている。（発言・記述）
二	2（本時）	○これまでの「たのしい」場面をもとに、短歌を作る。 ○作った短歌を見直し、自分の思いが伝わるように表現を工夫する。	○短歌のリズムや決まりを確かめ、場面について「五・七・五・七・七」で表現させる。 ○言葉を入れ替えたり、語順を変えたりするなど表現の工夫をするようにする。	【知・技①】 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（記述・発言） 【思・判・表①】 構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えている。（記述・発言）

三	3	○短歌を短冊に書き、感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	○題材や表現の仕方、言葉の使い方のよい点に着目して、感想を伝え合うようにする。 ○短歌作りにおいて、言葉を吟味することのおもしろさを価値づける。	【思・判・表②】 短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。（記述・発言）

5　本時の学習（2/3）

（1）目標

○語感や言葉の使い方を意識して、短歌を作ることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

（2）指導の手立て

○1人1台端末を有効に活用し共有化することで、自分の文章に活かせるようにする。

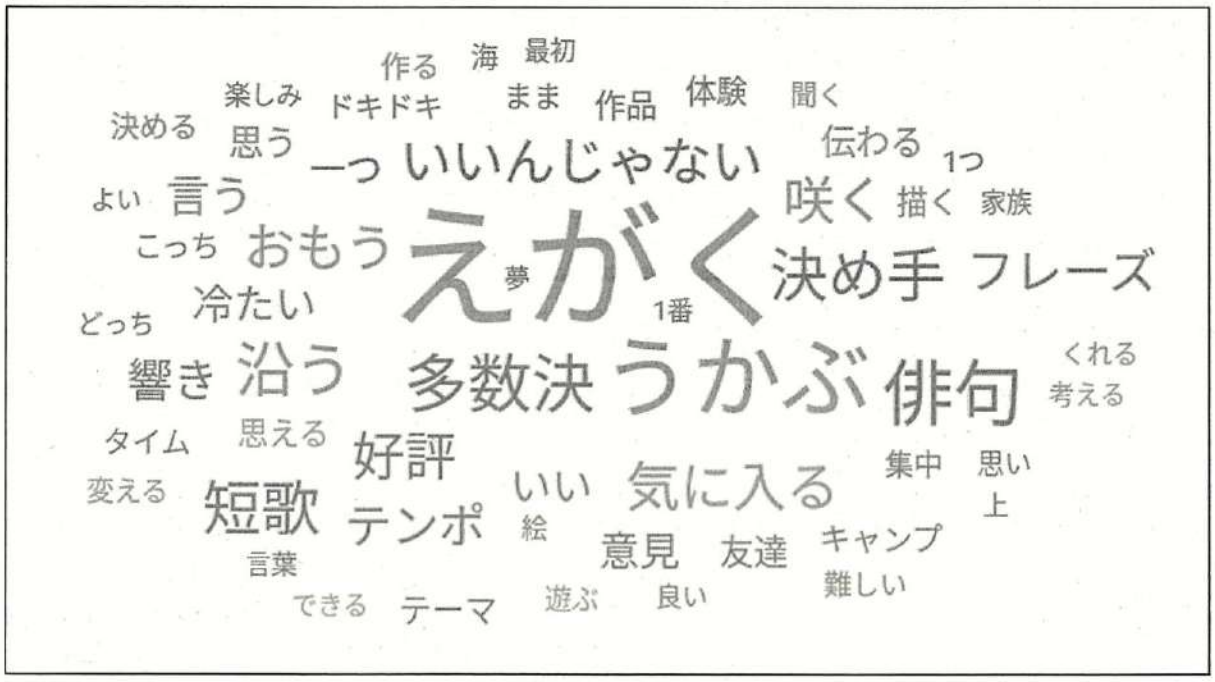
（3）展開

過程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	1　前時の学習を想起し、本時のめあてを知る。	○前時に学習した「たのしみ」な場面を振り返らせ、本時の学習の見通しをもたせる。【視覚化】
	自分の「たのしみ」が伝わる短歌を作ろう。	
考える	2　短歌をつくる。	○教師のモデル文を提示し、工夫することで「たのしみが伝わる」ことに気付かせる。 ○「たのしみ」が伝わるような言葉を選び、短歌を考えさせる。 ○短歌は1人1台端末を使うことで、共有しやすいようにする。【共有化】 ◆　語感や言葉の使い方を意識して短歌を作ることができる。【思考・判断・表現】（1人1台端末） ○手立て：友達の作品やモデル文を参考にさせる。
ふかめる	3　友達タイムを行う。 良さ（すてきだな）の例 ・たのしみが伝わる表現 （音、たとえなど） ・言葉の順番 ・「五・七・五・七・七」のリズム	○友達の短歌の「すてきだな」と思うところを見つけ伝え合うことで、言葉の使い方に注目することができるようにする。 ○表現を迷っている児童は友達と相談させる。 ○1人1台端末を2画面にすることで、前時に学習した「言葉集め」を参考にしながら話し合うようにさせる。
	4　清書する作品を決定する。	○友達に見つけてもらった良さを参考に、清書する作品を1つに決めさせる。 ○友達の作品の良さを見つけることで、自分の作品を更に工夫したくなった児童は、よりよい短歌を完成させる。
ま	5　学習の振り返りをする。	○友達の作品で見つけた良さや、自分の作品の良さを振り返る。

とめる	6　次時の学習内容を知る。	○次時は選んだ短歌を、清書し句会をすることを伝える。

6　本時の考察

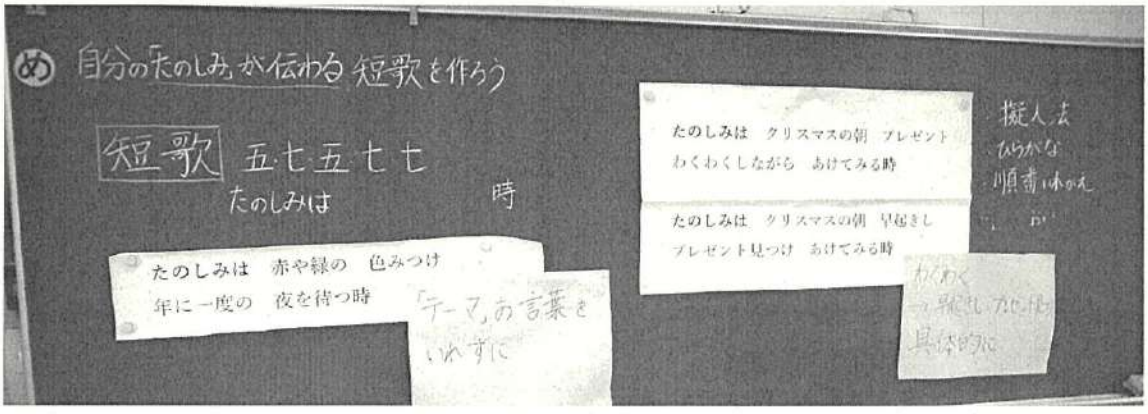
・事前に Jamboard を使って言葉集めをしたので、短歌をつくる活動にスムーズにはいることができた。
・自分の考えと友達の考えの視点で色わけをして言葉集めをしたが、ジャンルによって色分けしておくことで新たな話し合いの視点をもたせることができたかもしれない。
・自分の「たのしみ」が伝わる短歌をつくることを本時のめあてとしたが、たのしみの内容は個人によって違うので、伝わったかどうかを判断することが難しかった。

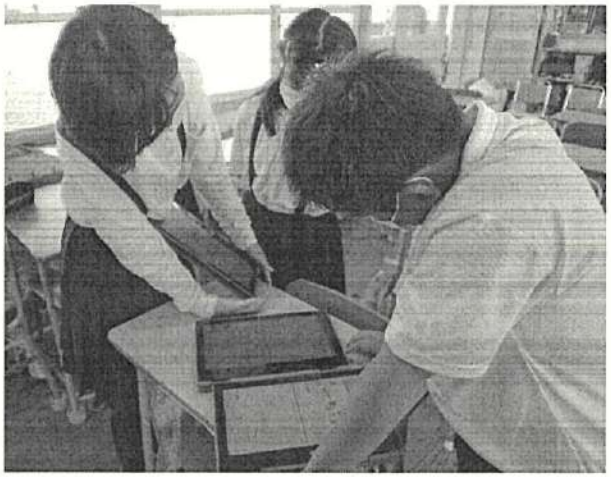


（タブレット端末の有用性）

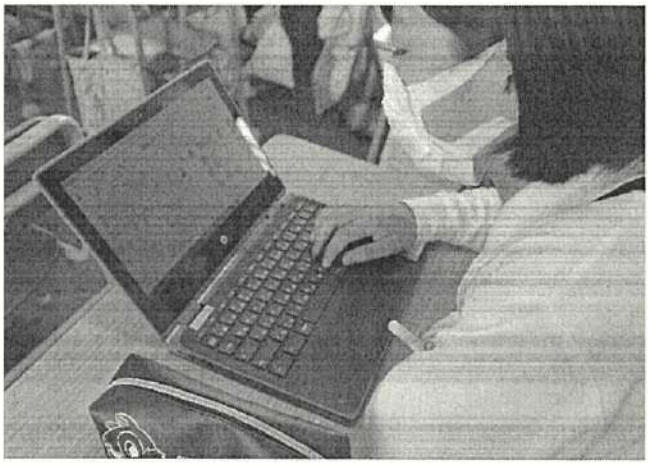
・単元を通して国語ノートを使わずに学習を進めた。昨年度からタブレットを取り入れた授業を多く実施していることから、意欲的に学習に取り組むことができた。
・スライド共有をすることで、友達の作品を参考にすることができるので、書くことに苦手意識がある児童に対しての支援につながった。
・友達タイムはタブレットを２画面にして実施することで、言葉集めした画面を友達と共有しながら話し合うことができた。アドバイスを行う際のヒントとなり、考えを深めることができた児童もいた。

【板書】





【友達タイム】



【タブレット端末を使う様子】

5　本時の学習（2/3）

（1）目標

○表現の工夫を考えながら、短歌を作ることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

（2）指導の手立て

○１人１台端末でワークシートを共有化することで、自分の短歌に生かせるようにする。

（3）展開

過程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	1　前時の学習を想起し、本時のめあてを知る。	**○前時に学習した「たのしみ」な場面を振り返らせ、本時の学習の見通しをもたせる。【視覚化】**
	自分の「たのしみ」が伝わる短歌を作ろう。	
考える	2　短歌をつくる。 表現の工夫の例 ・場面を読み手に想像させる言葉 ・より具体的な表現 ・五感を使った表現 ・言葉の順番を入れ替える	○教師のモデル文を提示し、工夫することで「たのしみが伝わる」ことに気付かせる。 ○「たのしみ」が伝わるような言葉を選び、短歌を考えさせる。 **○短歌は１人１台端末を使うことで、共有しやすいようにする。【共有化】**
ふかめる	3　友達タイムを行う。 話し合いの視点 ・リズムを整えよう。 ・表現を見直そう。 ・素敵な表現を見つけよう。	○話し合いの視点を与えることで、より「たのしみ」が伝わる短歌になるようにする。 ○１人１台端末を２画面にすることで、前時に学習した「言葉集め」を参考にしながら話し合うようにさせる。

		◆　構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えることができる。【思考・判断・表現】（１人１台端末） A　表現を工夫して、リズムよく短歌を整えることができる。 B　リズムよく短歌を整えることができる。 ○手立て：集めた言葉に着目させ、「たのしみ」な場面を想起させる。
まとめる	4　清書する作品を決定する。	○友達と話し合ったことを参考に表現を見直し、清書を一つ決めさせる。
	5　学習の振り返りをする。	○友達の作品で見つけた良さや、自分の作品の良さを振り返る。
	6　次時の学習内容を知る。	○次時は選んだ短歌を、清書し句会をすることを伝える。

6　本時の考察

（変更点）

・単元の目標を、「表現を工夫しながら短歌を作ろう」に変更した。これまで学習した工夫を生かして、より「たのしみ」が伝わる短歌を作ることができた。また、友達タイムもお互いの作品に助言し合い、考えを深めるための時間になった。

・振り返りの視点を「清書する作品を決定した決め手は？」から「友達タイムを通して･･･」変更した。児童の振り返りが、より具体的になった。

（主体的に学ぶための手立て・ＵＤ化）

・完成した作品を、佐賀県文学賞に出展するという目標をもたせることで、「工夫して作品を作りたい」という児童のやる気につながった。

・事前に Jamboard で自分が伝えたい「たのしみ」に関係する言葉を集め視覚化することで、どの児童も言葉を選びながら短歌を作ることができた。

・「書くこと」にタブレット端末を用いて授業を実践したことで、「書くこと」に対して苦手意識をもっている児童が意欲的に取り組むことができた。

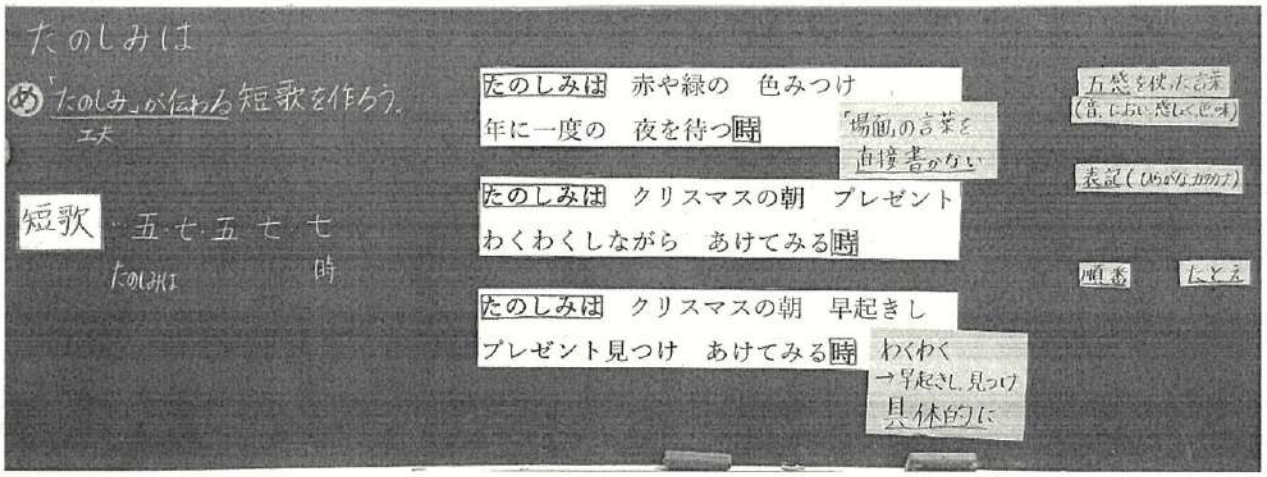
（友達タイム）

・「友達タイムの視点」を提示することで、話し合う内容が焦点化され有意義な話合いとなった。

・Jamboard（言葉集め）とスライド（短歌作り）を２画面表示することで、友達の作品のよさを見つけたり、助言したりする際に参考にすることができ、話合いが活発になった。

・はじめに、班の友達と話合ってから他の友達との自由な交流にすることで、自分の作品について必ず話題にすることができた。

【板書】



【友達タイム】

【友達タイムの視点】

友達タイムの視点

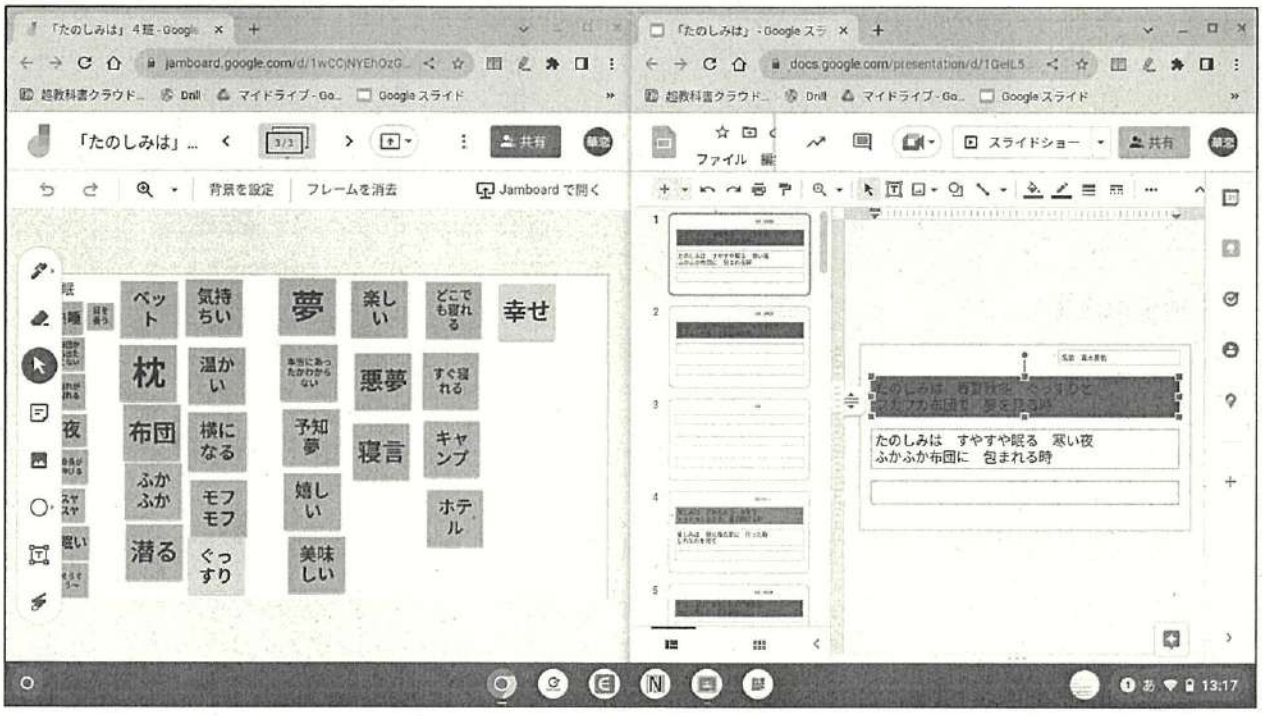
◎リズムを整えよう。
⇒五・七・五・七・七のリズムになっているかな？

◎表現を見直そう。
⇒表現の工夫を使えないかな？

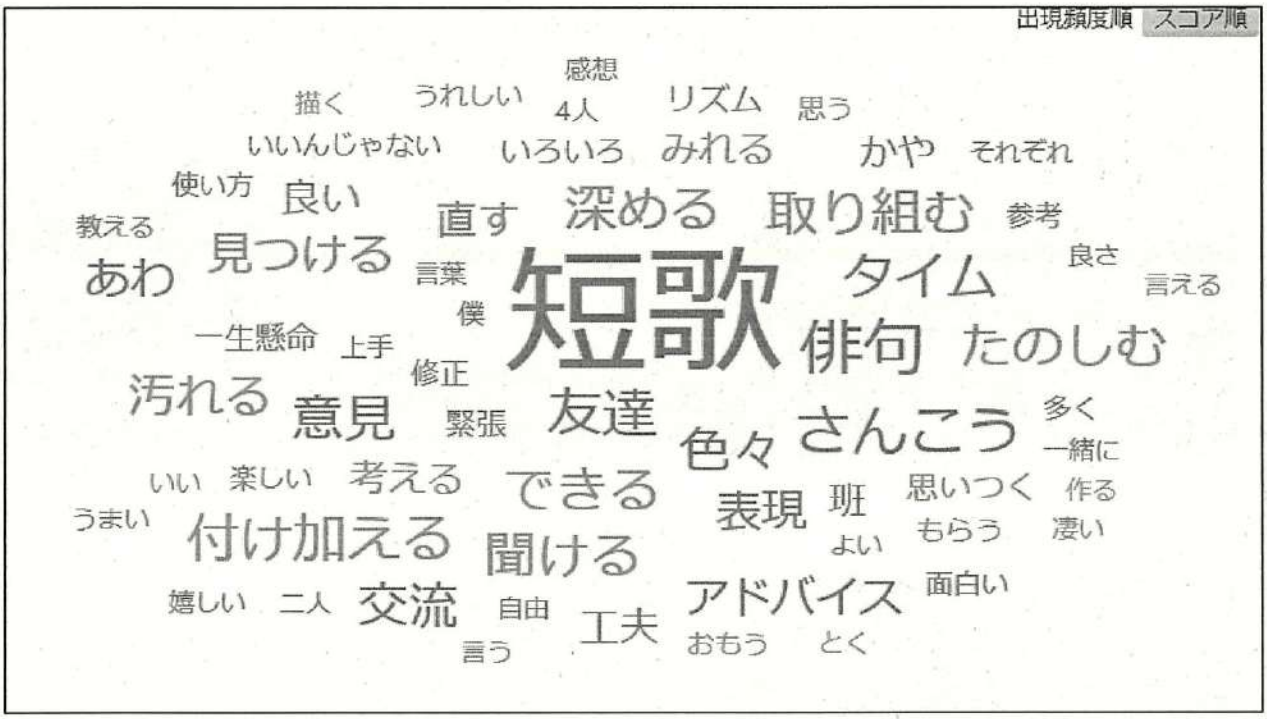
◎すてきな表現を見つけよう。
⇒「この言葉いいね！」
「この言葉はたのしみが伝わるね！」

7　本単元で用いたワークシート・資料

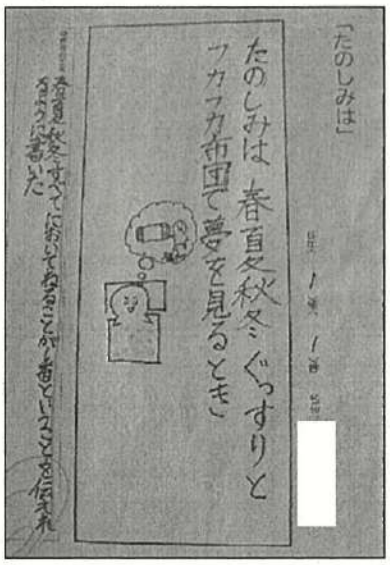
【児童のタブレット端末画面】

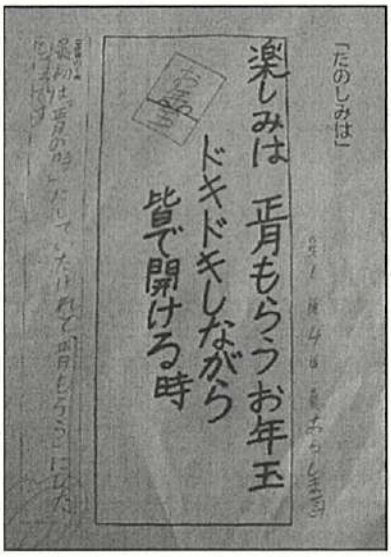


【授業の振り返り】



【清書した児童の作品】





8　研究の成果

（1）　単元について

・清書以外の書く活動を１人１台端末を使って行うことで、児童が意欲をもって言葉集めや短歌作りに取り組む姿が見られた。

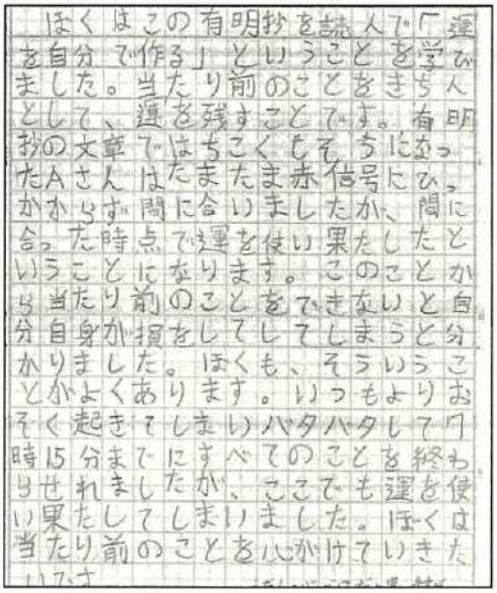
・集めた言葉の中から、自分が伝えたい「たのしみ」にぴったりな言葉や、五・七・五・七・七のリズムに合う言葉を選ぶことで、語感や言葉の使い方を意識することができるようになった。

（2）　年間を通して

【書く活動】

・週に１回、スキルタイムで有明抄の視写に取り組んだ。視写をする時間を毎回記録して、書く速さを意識させたり、目的意識を高めるために良いタイトルを掲示したりした。文章を読む力、写す力、適切なタイトルを考える力がついた。

・有明抄の視写の後には、内容について自分が考えたことを成長ノートに書く活動に取り組んだ。文章の要旨を捉える力、自分の考えを書く力がついた。


ぼくはこの有明抄を読んで「運を自分で作る」ということを学びました。当たり前のことをきちんとして、運を残すことです。有明抄の文章ではちこくもそうになったAさんはたまたま赤信号にひっかからず間に合いましたが、間に合った時点で運を使い果たしたということになります。このことから当たり前のことをできないと自分自身が損をしてしてしまうと分かりました。ぼくも、そういうことがよくあります。いつもよりおそく起きてしまいバタバタして7時15分までにすべてのことを終わらせれましたが、ここでも運を使い果たしてしまいました。ぼくは当たり前のことを心かけていきたいです

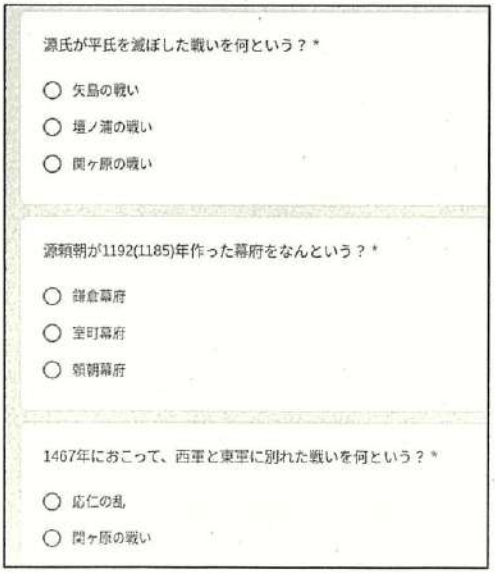
【有明抄の文章に対する考え】

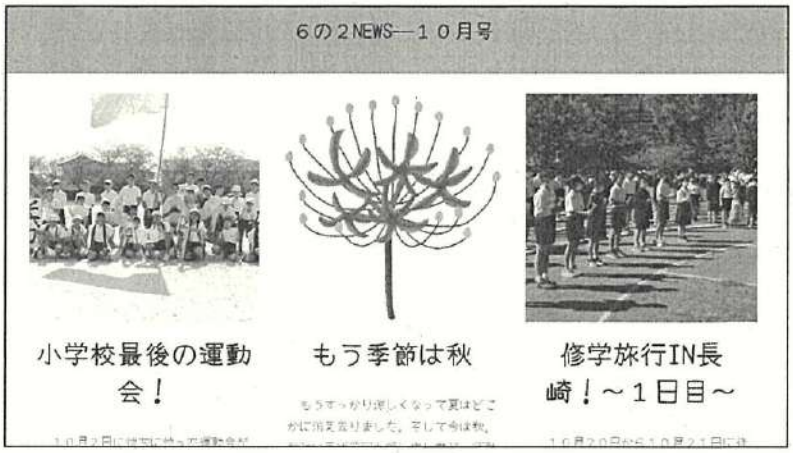
【タブレット端末を使った活動】

・１学期から継続的にタブレット端末を使う実践を行った。他教科においてもスライドを使ったプレゼンテーションを行ったり、新聞を作ったりするなどタブレット端末を使う機会を増やした。

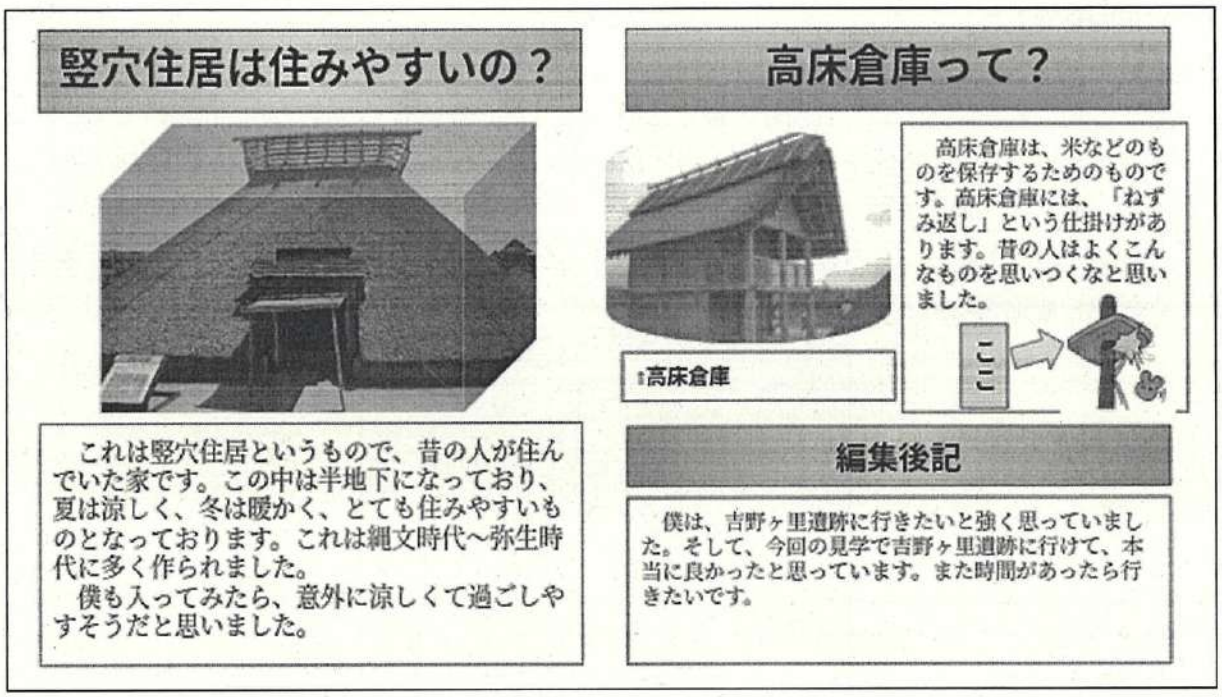
・社会科の学習では、社会科見学後にスライド機能を使って新聞を作成した。また、単元の終わりには、児童がフォーム機能を使って単元のまとめの問題を作り、お互いに解き合うことで理解を深めることができた。

・クラスのホームページを作成し、児童が運営した。全世界に公開するのではなく、クラスのみ閲覧ができ、家で保護者に見てもらった。





【←社会科のテスト前問題】【↑クラスで運営するホームページ】



【社会科見学の新聞】

9　今後の課題

・友達タイムの後、友達からの助言を元に短歌を修正する時間を取った。その際、１人１台端末を使ってもともとの短歌を消して修正したため、友達タイム前後の自分の考えの変容が見えなかった。スライドの画面の大きさや文字の大きさの問題もあるが、児童の活動の様子を見るためにも、修正後の文字の色を変えるなど工夫をして１人１台端末を使っていくことが必要だと感じた。

・短歌の工夫について、板書に掲示していたが、友達タイムで友達の作品の「よさ」を見つけるところに生かされていなかった。児童に評価について事前に明確に示すことで、教師も評価しやすく、児童も意識して短歌作りや友達タイムが行うことができるので、はじめに評価を示して活動に入りたい。

・友達タイムでより考えを深めるために、同じようなテーマの児童で集まるといい。しかし、テーマをはじめから限定してしまうと、児童の「自分なりのたのしみを短歌にしたい」という主体性を欠いてしまうのではないかと思うので、友達タイムのときに教師が意図的にグループを仕組むことも必要だと感じた。

・児童１人の言葉集めでは、生活経験の違いもあり難しさを感じた。日頃から自学などで言葉に関するテーマを与えるなど、日常的に言葉を広げる活動をしていきたい。

１人１台端末を活用した授業

第２学年１組　音楽科学習指導案

指導者　教諭　福島　愛美

１　単元名　リズムをつくろう

２　本時の目標

４分の４拍子のリズムをつくることができる。【思考力・判断力・表現力等】

３　１人１台端末の活用のねらい

ア　リズムを作ることができるシートを Jamboard で作成し、そこに音符や休符をコピー、貼り付けをしながらリズムを完成させることで、４分の４拍子に親しませる。

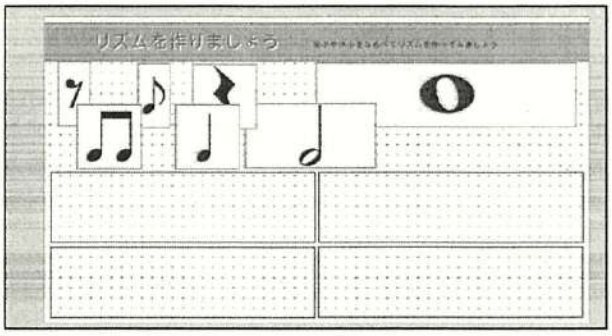
イ　１人１台端末を活用することで活動の際に試行錯誤がしやすく、また、人の考えを電子黒板で容易に提示できるので、全体共有の際にも便利である。

４　展開（２／３）

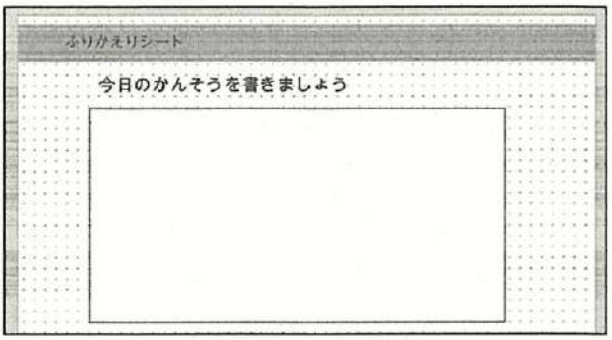
課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	１　既習学習を振り返る。	○音符の種類と長さを思い出させ、黒板に掲示する。 ○教科書のリズムの例を掲示し、教師の後にまねをさせ、リズムを感じ取らせる。 ○１つの箱の中には、４分音符が４つ分入っていることを感じとらせる。
	２　本時の学習を知る。	○４分の４拍子のリズムを電子黒板で見せ、様々なパターンがあることに気付かせ、「自分でも作ってみたい」という意欲を持たせる。
	はこの中におんぷやおやすみを入れてリズムをつくろう。	
考える	３　リズムをつくる。	**○Jamboard で活動させる。（ア）** ◆音符や休符を組み合わせて、４分の４拍子のリズムを作ることができる。【思考・判断・表現】 A：２小節以上のリズムをつくることができる。 B：１小節のリズムをつくることができる。 ○手立て：黒板の例を参考にするように助言する。
深める	４　全体で共有する。	**○児童のつくったものを winbird で電子黒板に提示し、共に手拍子しながらリズムを味わわせる。（イ）** ○個人で、グループで、全体で、と形態を変えて、つくったリズムを繰り返して味わわせる。
まとめる	５　学習を振り返る。	**○Jamboard に感想を書かせる。（イ）**

5　使用アプリの画面等

Jamboard（リズムを作るシート）



Jamboard（感想を書くシート）



6　本時の考察

（１人１台端末の活用のねらい　ア　について）

・貼り付け、コピーをすることで、４分の４拍子のリズムができるということは、間違いがあってもすぐに削除や修正ができ、子どもたちにとって取り組みやすかったと思われる。２分音符は４分音符の２つ分、８分休符は４分音符の半分というように、４分音符を基準に音符や休符の大きさを調整し、視覚的にも音符や休符の過不足が分かるようなシートを作成したことも４分の４拍子に親しませることに役立った。

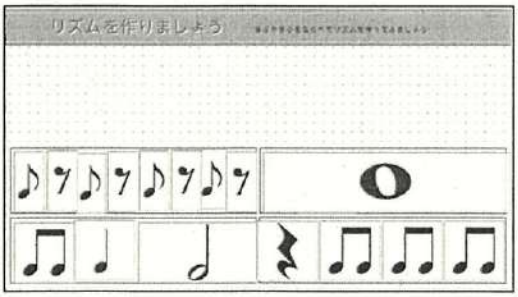
（１人１台端末の活用のねらい　イ　について）

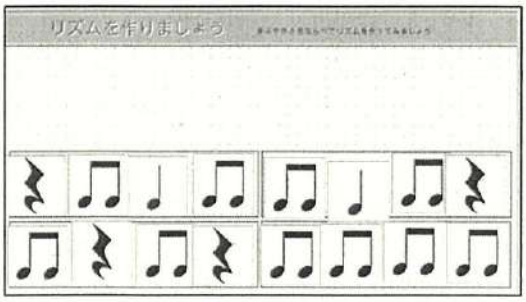
・１小節だけではなく、２小節、３小節とリズムを作っていき、４分の４拍子には様々なパターンがあることに気付くことができた。また、できあがったリズムに合わせて、自分で手拍子をしながら確認する姿を見ることができた。友達の作品を全体で共有した際には、電子黒板に提示されたリズムと自分のタブレット端末のリズムを比べながら、「そういうリズムもあるんだ」とつぶやきながら、楽しそうに手拍子をする児童もいた。

（その他）

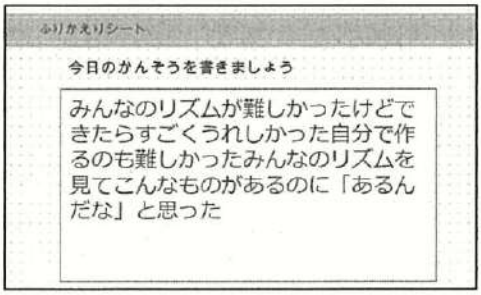
・振り返りを音声入力、手書き入力で行ったため、スムーズに取り組むことができていた。

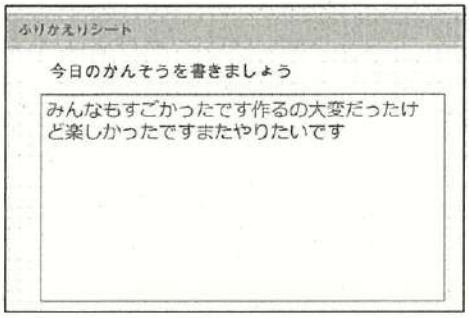
7　授業の様子・児童の様子・ワークシート等）





児童が考えたリズム





児童の振り返り

第２学年２組　生活科学習指導案

指導者　教諭　森田　祐介

１　**単元名**　大きくなってね　わたしのやさい

２　**本時の目標**

自分の野菜を観察、紹介する活動の中で、これまで記録してきたものを振り返ったり、友達の観察カードと比べたりすることで、生育の様子や頑張ってお世話をしている自分の成長に気付くことができるようにする。【知識及び技能】

３　**１人１台端末の活用のねらい**

ア　野菜の栽培、観察記録を Jamboard で継続して行うことにより、観察の視点の広がりや自分の思いの変化について効果的に振り返ることができるようにする。

イ　付箋の色分け機能を使うことにより、観察の視点、野菜に対する思いや願いなどを共有しやすくし、野菜や自分の成長に関する新たな気付きを生み出す。

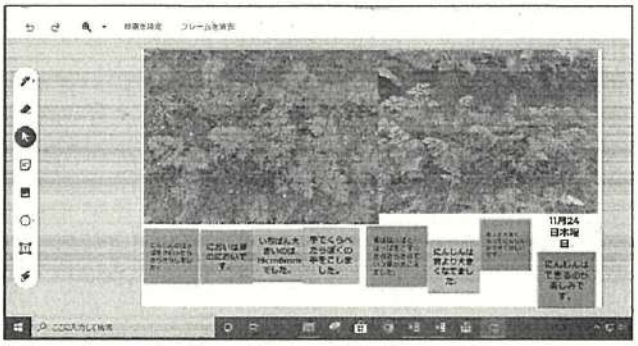
４　**展開（６/８）**

課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	１　前時までの活動を想起し、本時の活動内容を捉える。 ・実が大きくなってきたので楽しみだな。どれくらい大きいのかな。 ・匂いは変わっているのかな。 ・枯れかけたけど頑張っている姿を知らせたいな。	○これまでの活動の様子を電子黒板で共有することで、観察の視点の共有、これまでの活動への価値付けを行う。 ○今日の野菜にはどんな成長が見られそうなのか予想しながら観察に向かわせることで、期待感をもって活動ができるようにする。
	わたしのやさいの「すごさ*」を見つけてしょうかいしよう	
考える	２　野菜の観察、記録をする。 ・だいぶ虫に食べられているな。誰が食べているのかな。 ・最初のころと葉っぱの形や大きさが変わってきたな。どんどん大きくなっているぞ。 ・まびきをしておいてよかったな。 ・早く採りたいな。 ・匂いは完全に大根だ。 ・キャベツが丸まってきた。	○五感を使った観察活動を行うことで、生育についての多様な見方や関わり方ができるようにする。 ○近くにある野菜との比較を促すことで、生育の類似性や特異性にも気付くことができるようにする。 **○観察の視点毎に色分けした付箋機能を用いることで、観察方法の広がりや自分の思いや願いを意識できるようにする。（ア）**
深める	３　野菜の「すごさ」を紹介し合う。 ・ぼくのやさいの「すごさ」は、触った感じがずっと変わっているところだよ。つるつるしていたけど、ざらざらしてきたよ。 ・わたしのかぶは力が強くなってきて、もう土からはみ出してきたよ。 ・大根もかぶと同じだよ。だんだん白い部分がでてきて、今にも飛び出しそうだよ。 ・キャベツとブロッコリーはきれいな青緑になってきたね。これも「すごさ」かな。 ・虫よけの薬でキャベツが強くなったよ。教えてくれてありがとう。	**○Jamboad で作成した観察カードを紹介しながら、見付けた「すごさ」について共感したり、意見し合ったりすることで、新たな気付きを生み出し、今後の活動に対する意欲付けをする。（イ）** ◆自分が見付けた野菜のすごさを紹介し合うことで、野菜の生育や自分の成長について気付くことができる。【知識・技能】 A：野菜の栽培活動を通して、観察の視点が広がったり、一生懸命お世話をしたりできた自分の成長に気付くことができる。 B：野菜のすごさを紹介し、野菜の変化や野菜に対する自分の思いや願いに気付くことができる。 ○手立て：記録してきた観察カードを見返すことで、常に変化してきていることを共有する。
まとめる	４　本時の振り返りをし、今後の活動への見通しをもつ。	○これからどんなお世話をしていきたいのか考えさせることで、今後の活動への見通しをもたせる。

＊「すごさ」とは、野菜について児童が感動したり、児童なりに気付いたりしたことを指している。

5　使用アプリの画面等

Jamboard（観察記録シート）



6　本時の考察

(1) １人１台端末の活用のねらいアについて

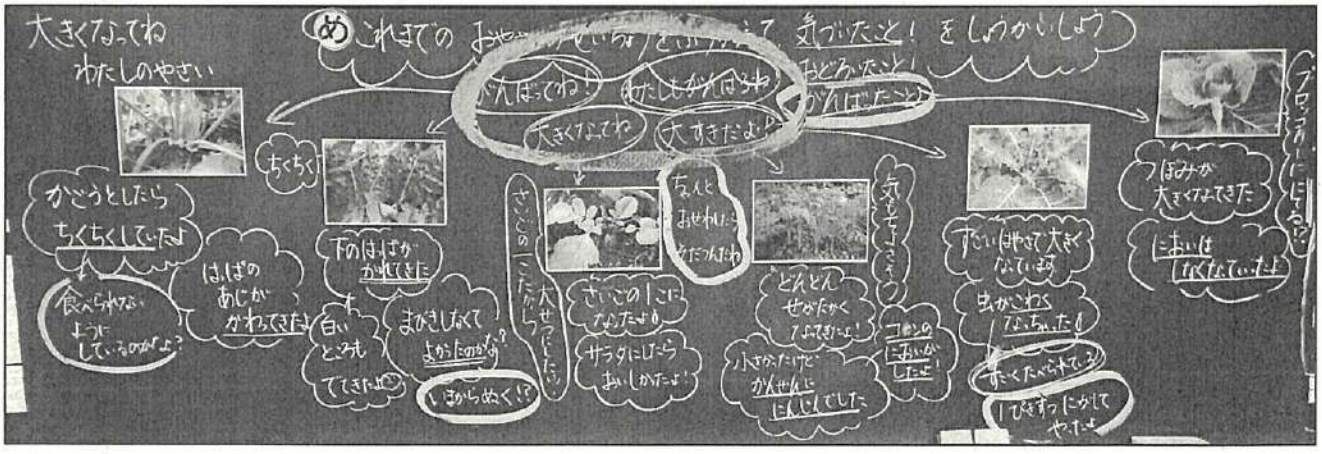
・Jamboard（観察記録シート）を用いた観察活動を行うことで、生長の様子を客観的に記録していけるという利点がある。２年生という発達段階において、絵や文字で自分の思いや願い、生長の記録等を的確に記録できるわけではない。時系列で記録していけるので俯瞰して生長を振り返ることができる児童が大半であった。それに伴い、生長の規則性に実感をもって気付いたり、自分の野菜に対する愛着が高まったりする児童が多くいた。

・観察し始めた頃、付箋紙の色等は児童に任せていたが、気付きを交流し合ううちに気付きを分類できることを共有し合った。対象に働きかける際の視点ごとに付箋紙を色分けすることで、様々な方法で対象に働きかけようとする意識が児童に芽生えていった。それは、写真の撮り方にも表れており、「何を伝えたいのか」「どこに注意が向いているのか」等、教師が見取る際の材料ともなった。

(2) １人１台端末の活用のねらいイについて

・児童が野菜の様子を交流する際には、１人１台端末を持ち寄って紹介したい場面が多く見られた。生長の様子や嬉しかったこと、困っていること等について語る中で自分の野菜に対する気付きが確かなものとなり、自信を持って交流やその後の栽培活動に向かおうとする児童の姿が多く見られた。また、児童の発言の中には「キャベツとブロッコリーの葉の様子が似ている」「虫が付きやすいものと付きにくいものがある」「生長の速さが全然違う」等、異なる野菜種を比べながら観察することで自然認識の視点に立った見方をしていた。観察視点や友達のこだわっている点を自分の野菜にも転用しようとすることで、学び方自体も更新させようとする児童の姿が見られた。

7　授業の様子・ワークシート・児童の作品等



第５学年１組　図画工作科学習指導案

指導者　教諭　尼寺　公子

１　単元（題材）名　　形が動く絵が動く

２　本時の目標

コマどりアニメーションの仕組みを使って、短いアニメーションを作ることができる。

【知識及び技能】

３　１人１台端末の活用のねらい

ア　コマ撮りアニメーション制作アプリ「KOMA KOMA」を活用する。KOMA KOMA は、一つ前に撮影した写真が透けて残るので次の撮影位置を決めやすい。また、ボタン操作がシンプルなのでデジタル機器に慣れていない児童でも、主体的にコマ撮りアニメーションの仕組みを使って思いついたアイデアを撮影することができる。

イ　撮影後すぐにそのアニメーションを確認できるので、撮影するたびに、ねらった動きになっているか何度も確認したり、友達と鑑賞し合い、良い点・改善点などアドバイスし合ったりして、よりよい作品作りに生かしながら撮影することができる。

４　展開（1/6）

課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	1　アニメーションの仕組みを知り、活動の見通しを持つ。	○参考作品のアニメーション動画を見せ、アニメーションの仕組みを理解させたり動きの面白さを感じさせたりして、アニメーション作りに関心を持たせる。
		アニメーションを作ろう
考える	2　KOMA KOMA の使い方を知る。	○教師が作成したアニメーション（KOMA KOMA で作成）を紹介し、撮影の仕方を説明する。
	3　10枚の絵を使って撮影の仕方を確かめる。	○一つ前に撮影した写真が透けて残るので、次の撮影位置を決める際の参考にさせる。
	4　身近な物を使って短いアニメーションを作り、対象物の動かし方を確かめる。	○身近にある物を使って撮影の練習をさせることで、対象物の動かし方を確かめさせる。 ○アニメーション作りのコツを確かめさせる。 ①撮影は同じ場所で　②対象物は少しずつ動かす
深める		**○撮影するたびに、ねらった動きになっているか確認させ、対象物の動かし方を確かめさせる。（イ）**
		◆短いアニメーションを作ることができる。【知識・技能】 A：動きに変化を加えながら短いアニメーションをつくることができる。 B：短いアニメーションをつくることができる。 ○手立て：アニメーション作りが進まない児童には、撮影の仕方のコツを振り返らせたり、参考作品をヒントに作らせたりする。
まとめる	5　友達の作品を見て、意見交流をする。	○クラスルームを使って、作った動画を提出させ、皆で鑑賞する。
	6　本時の振り返りをする。 7　次時の学習内容を知る。	○数名の児童の作品を鑑賞させ、動きの工夫点などを紹介させることで、次時のアニメーション作りの意欲付けを図る。

5　使用アプリの画面等

KOMA KOMA

(https://www21.nichibun-g.co.jp/komakoma/app/)

作品例

(https://www21.nichibun-g.co.jp/komakoma/gallery/)

6　本時の考察

（１人１台端末の活用のねらい　ア　について）

・**コマ撮りアニメーション制作アプリ「KOMA KOMA」は１人１台端末ならのアプリであり**、操作が簡単なので、操作スキルのレベルを問わず児童はすぐに操作を覚えてスムーズにアニメーション作りに取り組むことができた。アニメーションの仕組みも理解しやすく、「どんな動きや変化が作れそうか」「何が動くと楽しいか」と次々に想像をふくらませ、意欲的に活動することができた。

（１人１台端末の活用のねらい　イ　について）

・撮影後すぐにそのアニメーションを確認できるため、児童は何度も動きや変化を確認し、配置や動かし方などを試行錯誤しながら工夫して作品を作ることができた。班活動の際にも、撮影を進める度に皆でアニメーションを確認し、よりよい表現になるように話し合いながら活動することができた。また、友達の作品にたくさん触れることで様々な表現方法があることに気づき、自分の作品作りに生かすことができた。

（その他）

・今後は図画工作の単元だけでなく、様々な場面で活用できないか探っていきたい。

7　授業の様子・ワークシート・児童の作品等

第５学年２組　算数科学習指導案

指導者　教諭　小柳　浩貴

１　**単元名**　　面積

２　**本時の目標**　　求積可能な図形をもとに平行四辺形の面積の求め方を考えることができる。

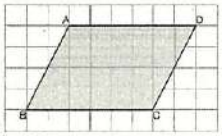
【思考力・判断力・表現力等】

３　**１人１台端末の活用のねらい**

ア　Ｄマークコンテンツを活用することで、平行四辺形の面積を既習の求積方法の分かる図形に変形することができるようにする。繰り返し試行錯誤ができ、ノートよりも取りかかりやすいと考える。

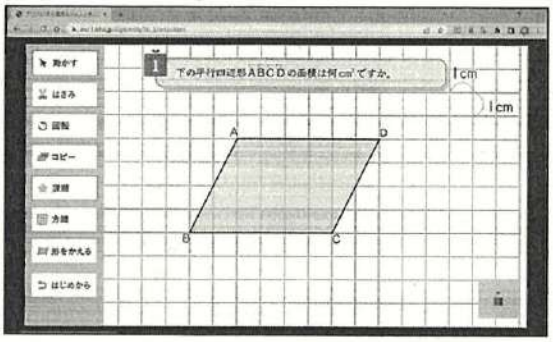
イ　１人１台端末を活用することで、児童同士や学級全体での協働的な活動や考えを共有する活動が容易にできる点が効果的であると考える。

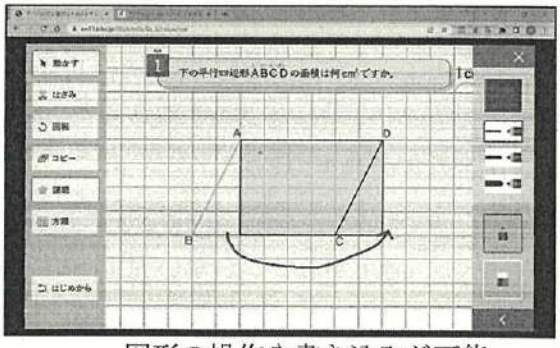
４　**展開（４／１３）**

課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	１　本時の学習課題を知る。  ２　解決の見通しをもつ。 ・切る・動かす・付け足す ・既習の公式を使う	○電子黒板に問題の図を提示し、本時の課題を捉えさせる。 ○長方形や三角形の面積の公式の活用について問いかけ、児童の意欲を喚起する。 ○三角形の面積の求め方をふり返りながら、解決の見通しをもたせる。
	平行四辺形の面積の求め方を考えよう。	
考える	３　自力解決をする。	**○Ｄマークコンテンツを使用し、自分の考えを図、式、言葉を使って表現させる。（ア）** ○平行四辺形の面積の求め方は一つではないことを伝え、他の方法を考えるように促す。 ◆求積可能な図形をもとに平行四辺形の面積の求め方を考えることができる。【思考・判断・表現】 A：求積可能な図形をもとに平行四辺形の面積の求め方を二つ以上考えることができる。 B：求積可能な図形をもとに平行四辺形の面積の求め方を一つ考えることができる。 ○手立て：平行四辺形を変形するように声かけをすることで、長方形などの既習の形に目を向けられるようにする。
深める	４　全体で考え方を出し合い、話し合う。	○児童の考えを図にかかせて、黒板に掲示する。 **○電子黒板に児童が考えをかきこんだ図を提示する。（イ）** ○図を見て、相違点や共通点を話し合わせる。 ○発表者には考え方を順序よく説明させる。 ○どの考えでも答えは同じになることを確認する。
まとめる	５　本時の学習をまとめる。	○黒板の言葉をもとに、児童の言葉を用いてまとめる。
	三角形や長方形に形をかえれば平行四辺形の面積を求めることができる。	
		○Forms を使い、ふり返りをさせる。（イ）

5　使用アプリの画面等

東京書籍Ｄマークコンテンツ（https://sw11.tsho.jp/02pk/m5b/5b_3/index.html）





図形の操作や書き込みが可能

6　本時の考察

（１人１台端末の活用のねらい　ア　について）

・１人１台端末を使って図形の変形を行うことで、児童が意欲をもって取り組む姿が見られた。また、繰り返し試行錯誤ができ、様々な方法に挑戦していた。

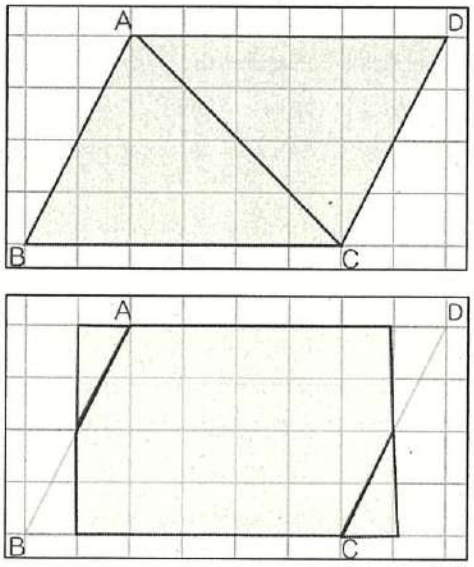
（１人１台端末の活用のねらい　イ　について）

・１人１台端末を活用することで、代表児童の考えを学級全体で容易に共有でき、全体発表の場に生かすことができた。

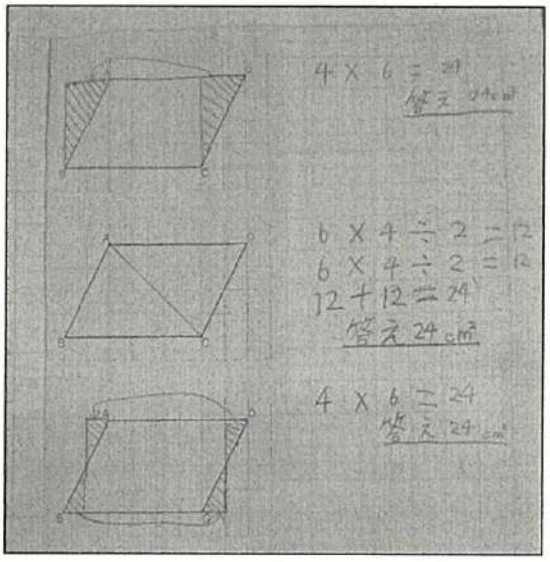
・児童が提出した考えを教師がいつでも見ることができるので、個人の問題解決の状況を把握しやすく、個別指導の際に生かすことができた。

・ふり返る活動では、自分と友達のふり返りを比べることで、本時で学んだことについての考えを深めることができた。

7　授業の様子・ワークシート・児童の作品等



（児童が変形した図形）



（児童のノート）

第６学年２組　学級活動（１）学習指導案

指導者　教諭　中島　悠介

１　題材　　クリスマ素敵な１日を計画しよう【遊び編】

２　本時の目標

提案理由に沿って話し合い、友達の意見を受け止めながら意見整理や合意形成を図り、実践への見通しをもつことができる。　【思考力・判断力・表現力】

３　１人１台端末の活用のねらい

ア　事前に Jamboard を使って議題に対する考えを自由に打ち込んでおく。Jamboard から自分の意見を選ぶことで、考えが思いつかない児童への手助けとなるようにする。

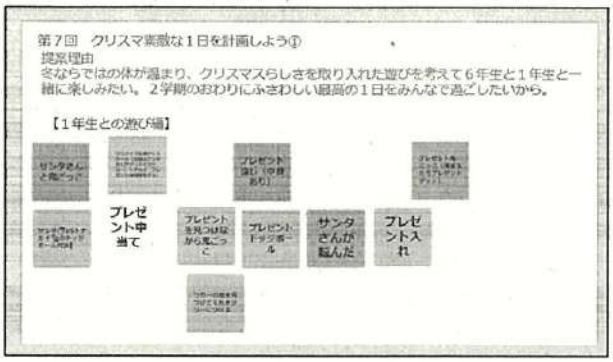
イ　学級会ノートはスライドを使うことで、自分の意見だけでなく「意見をまとめた表」や「活動のふりかえり」などを整理してまとめることができる。

ウ　本時のふりかえりは Forms を使い、意見の集約を簡単にできるようにする。

４　展開（１／４）

課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	１　本時の議題と提案理由、話合いのめあてを確認し、教師の話を聞く。	○提案理由のキーワードとなる言葉を確認することで、児童が同じ目的に向かって話合い活動ができるようにする。 ○これまでの学級会での振り返りを紹介し、クラスで協力して課題を解決してきたことを称賛することで、これからの話合い活動への意欲を高める。
考える 深める	２　柱に沿って話し合う。	○話し合いは満場一致型とし、提案者を中心とした合意形成を行い、全員が納得いくような形になるように導く声かけをする。 **○事前に学級会ノートに意見を書いておくことで、多くの意見が出るようにする。（ア）（イ）** ○発言を引き出すため、出された意見には適宜価値付けを行う。 ○反対意見や修正案により話合いが滞る場合は、提案理由に照らし合わせて確認できるよう友達タイムを議長に促す。 ◆話合い活動での意見整理や合意形成をすることができる。【思考・判断・表現】〈観察・学級会ノート〉 A：B に加え、提案者の考えに沿った考えを伝えることができる。 B：自分の考えを話合いの中で友達に伝えることができる。 ○手立て：板書をもとに、合意形成につながる話合いのポイントを想起させる。
まとめる	３　振り返りを行う。 ・司会グループからの気づき ・個人のふりかえり	**○本時の話合い活動を振り返ることで、活動につなげやすいようにする。（イ）（ウ）**
	４　教師の話を聞き、学級会を閉じる。	○提案理由に沿って話合い活動ができていた児童や、建設的な意見を述べていた児童を称賛し、今後の意欲的な活動につながるようにする。

5　使用アプリの画面等



Jamboard（事前に考えを出し合う）

スライド（事前に意見に質問をする）

6　本時の考察

（１人１台端末の活用のねらい　ア　について）

・事前に意見を書く期間を設けることで、時間に縛られず思いついたときに自由に書き込むことができる。また、考えが思いつかない児童への手助けともなり１つの考えから多様な考えが生まれることもある。

・自分で考えることを怠る児童がおり、自由に書き込む児童が決まった人になりがちなことがあることが課題である。

（１人１台端末の活用のねらい　イ　について）

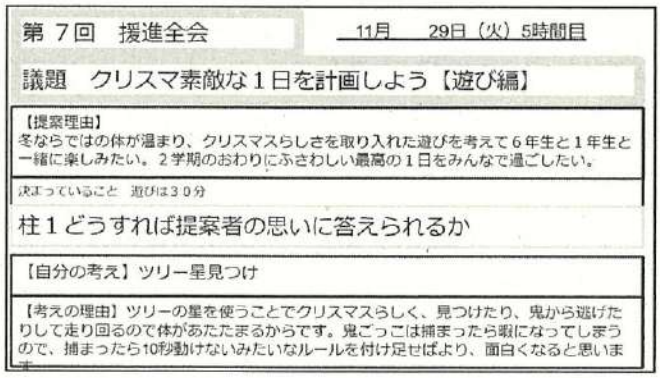
・これまでの紙媒体の学級会ノートと同じように自分の考えを見返すことだけでなく、企画の振り返りをまとめることができる。

・友達の考えの理由をスライドで共有することで、合意形成する際の手助けとして活用することができた。

（その他）

・今後は Jamboard を話合いの場でも活用できることを探る。例えば、意見の変容を色分けして視覚的に確認していくことで、合意形成する手助けとすることが考えられる。

7　授業の様子・ワークシート・児童の作品等



第７回　援進全会　　11月　29日（火）5時間目

議題　クリスマ素敵な１日を計画しよう【遊び編】

【提案理由】
冬ならではの体が温まり、クリスマスらしさを取り入れた遊びを考えて６年生と１年生と一緒に楽しみたい。２学期のおわりにふさわしい最高の１日をみんなで過ごしたい。

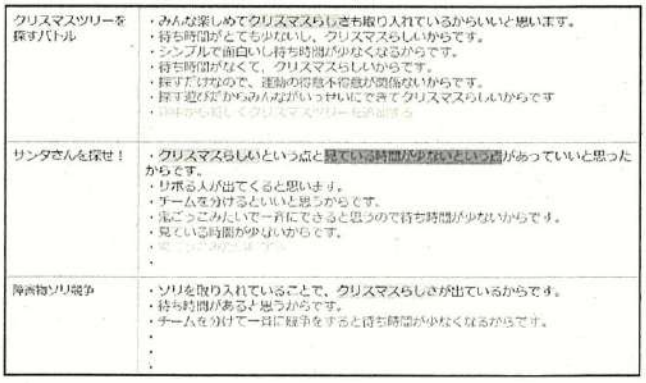
決まっていること　遊びは３０分

柱１どうすれば提案者の思いに答えられるか

【自分の考え】ツリー星見つけ

【考えの理由】ツリーの星を使うことでクリスマスらしく、見つけたり、鬼から逃げたりして走り回るので体があたたまるからです。鬼ごっこは捕まったら暇になってしまうので、捕まったら10秒動けないみたいなルールを付け足せばより、面白くなると思います

（本時のワークシート）



クリスマスツリーを探すバトル	・みんな楽しめてクリスマスらしさも取り入れているからいいと思います。 ・待ち時間がとても少ないし、クリスマスらしいからです。 ・シンプルで面白いし待ち時間が少なくなるからです。 ・待ち時間がなくて、クリスマスらしいからです。 ・探すだけなので、運動の得意不得意が関係ないからです。 ・探す遊びだからみんながいっせいにできてクリスマスらしいからです ・[illegible]
サンタさんを探せ！	・クリスマスらしいという点と見ている時間が少ないという点があっていいと思ったからです。 ・リボる人が出てくると思います。 ・チームを分けるといいと思うからです。 ・鬼ごっこみたいで一斉にできると思うので待ち時間が少ないからです。 ・見ている時間が少ないからです。 ・[illegible] ・
障害物ソリ競争	・ソリを取り入れていることで、クリスマスらしさが出ているからです。 ・待ち時間があるよ思うからです。 ・チームを分けて一斉に競争をすると待ち時間が少なくなるからです。 ・ ・ ・

（意見を共有したスライド）

ひまわり５組　算数科学習指導案（自閉・情緒）

指導者　教諭　坂元　研太

１　**単元**　線路づくり

２　**本時の目標**

「線路づくり」の活動に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。

３　**１人１台端末の活用のねらい**　【思考力・判断力・表現力等】

ア　Jamboard を活用し線路づくりのカードを自由に動かすことができるようにする。シートを増やすことで複数の線路を作成することができ、友達との共有も簡単にできる点が効果的であると考える。

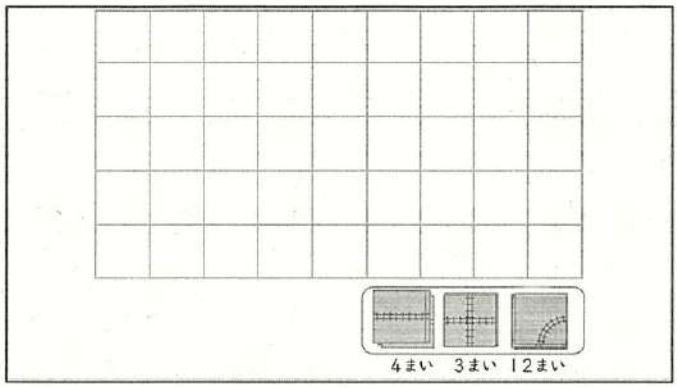
イ　１人１台端末の利用は児童が楽しみにしているため意欲の継続にもつながる。

４　**展開（１／１）**

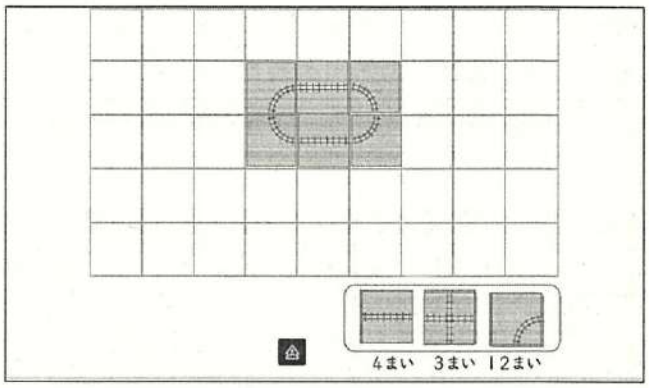
課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	１　本時の課題を知る。	○電子黒板を見せて線路づくりに興味をもたせ、活動の見通しをもたせる。
	せんろづくりをしよう。	
考える	２　Jamboard で練習に取り組む。	○どのカードが何枚必要かを確認し、見通しをもちながら線路を作らせるようにする。 ○細かい作業が苦手な児童に対しては一緒に取り組む。
	３　Jamboard で個別活動に取り組む。 ・活動の約束を提示し確認する。 1. ぐるっと回るようにつなぐ。 2. 途中で線路が切れない。	○電子黒板でよいつなぎ方と悪いつなぎ方の違いを見せ、活動の約束を確認する。 **○迷っている児童には、他の児童の作成しているものをヒントとして見せることで活動の見通しをもたせる。（ア）** **○活動が難しい児童には、途中までできているシートを使って取り組むよう促す。（ア）** ◆活動の約束にしたがって線路を作ることができる。【思考・判断・表現】 A：見通しをもちながら、線路の構成を考え、２つ以上作ることができる。 B：線路づくりに取り組み１つ作ることができる。 ○手立て：友達の作成しているものを見せたり途中までできているシートを使ったりする。
深める	４　全体で共有する。	○約束に沿って作ることができているかを確認し賞賛する。
	５　カードを全て使って線路をつくる。	○カードを全て使った線路を紹介し、見本を確認しながら作らせる。
まとめる	６　振り返りを行う。	○楽しかったこと、おもしろかったことなどを書かせる。 **○複数の手立てを用意し、児童が取り組みやすいものを選ばせる（Forms、音声入力、手書き入力）。（イ）**
	７　終わった児童から自立活動でミニナンプレをする。	○各自ブースで取り組ませる。

5　使用アプリの画面等

Jamboard（活動用のシート）



Jamboard（作成例）



6　本時の考察

（１人１台端末の活用のねらい　ア　について）

・シートを増やすことができ、早く完成した児童はより多くのカードを使った線路づくりに挑戦していた。操作ややり直しが簡単にできるので、活動に余裕が出来て試行錯誤しながら何度も挑戦できていた。また、悩んでいる児童は他の児童のシートを参考にすることで自らの線路づくりのヒントとなっていた。共有の際にはペンツールを活用することで、完成した線路が途切れていないかの確認も簡単に行えた。

（１人１台端末の活用のねらい　イ　について）

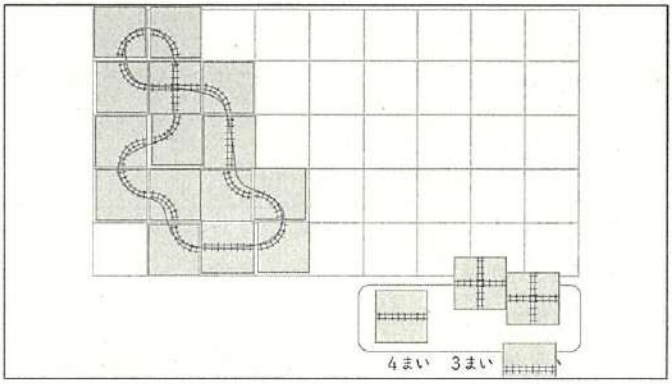
・実際に線路づくりのカードを動かして作業することで、集中力が途切れることなく楽しんで取り組むことができていた。振り返り後も引き続き線路づくりに取り組むなど活動への意欲を継続することができた。

（その他）

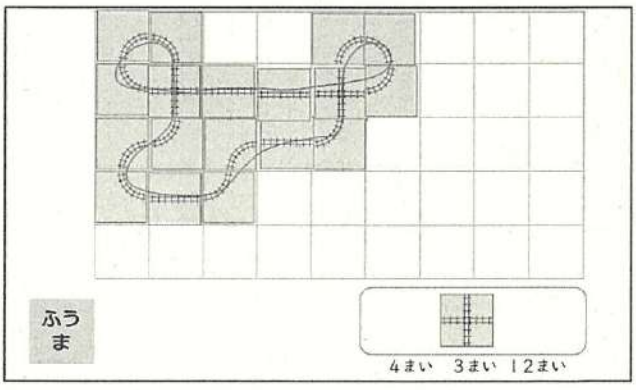
・振り返りでは全ての児童が「楽しかった」と回答し、書くことが苦手な児童でも音声入力を活用することで回答することができていた。

7　授業の様子・ワークシート・児童の作品等

【ワークシート（A児）】



【ワークシート（B児）】



ひまわり７組　自立活動学習指導案（自閉・情緒）

指導者　講師　木原　秀徳

1　活動名　　すごろくをつくろう　【3 人間関係の形成―(1)　6 コミュニケーション―(2)】

2　本時の目標　　約束にそって、マスのイベントを友達と協力して作ることができる。

3　１人１台端末の活用のねらい

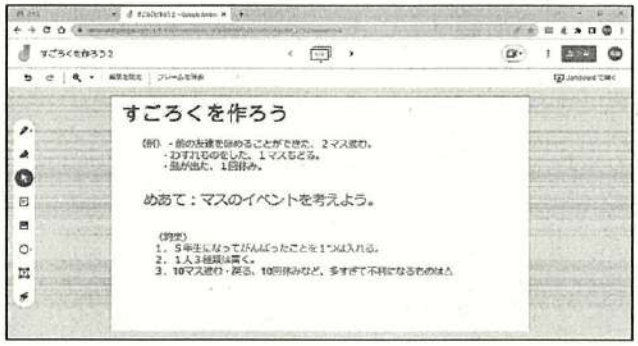
ア　Jamboard を活用し、付箋機能を使って自分の考えを書き、友達と協働してマスのイベントを作ることができるようにする。
イ　付箋は色分けをすることにより、視覚的に何について書くのかが分かるようにできると考える。
ウ　１人１台端末を利用することで、児童は意欲的に集中して学習することができる。

4　展開（２／５）

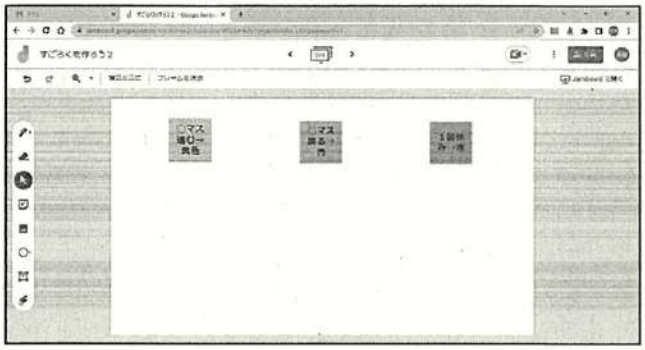
課程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	1　教師と児童で以前作ったすごろくを見る。	○マスのイベントは児童と教師が考えたものだということを伝え、今回は児童だけでイベントを考えるという意欲を高める。 ○例を提示し、これからする活動の見通しを持たせる。 例・前の友達をほめることができた、２マス進む。 ・体そう服を忘れた、１マスもどる。 ・熱が出た、１回休み。
	2　本時のめあてを知る。	
	すごろくのマスのイベントを考えよう。	
考える	3　マスのイベントを考える時の約束を確認する。	○約束を提示して、イメージを持たせる。 〈約束〉 ・５年生になって頑張ったことを一つは入れる。（１年の振り返り） ・１人３種類（進む、戻る、休み）は書く。 ・10 マス進む・戻る、10 回休みなど、多すぎるものは作らない。
	4　Jamboard を活用し、イベントを考える。 ・付箋機能を使って、ローマ字手書き・音声入力を活用し、イベントを書く。	**○付箋機能を使い、３種類のイベント（色分け/進む→黄色、戻る→青、休み→赤）を考えさせる。（イ）** **○書くことが難しい児童については、Jamboard の共有機能で、他の児童のものを参考にしながら書かせる。（ア）** ◆マスのイベントを考えることができる。　【思考・判断・表現】 A:約束にそったマスのイベントを４種類以上作ることができる。 B:約束にそったマスのイベントを３種類作ることができる。 ○手立て：教師と児童で以前作ったすごろくを参考にしながらマスのイベントを作らせる。
深める	5　作ったマスのイベントを友達と共有する。	**○約束にそって作られているかを児童とともに Jamboard の共有機能で確認し、全員で検討し、修正させる。（ア）**
まとめる	6　振り返りと次時の予告をし、スライドで振り返りをさせる。	**○スライドで本時の振り返りをさせるとともに、次時の予告をすることで、見通しを持って活動に取り組めるようにする。（ウ）**

5　使用アプリの画面等

Jamboard（約束の提示）



Jamboard（マスのイベントを考える場面）



6　本時の考察

（1人1台端末の活用のねらい　ア　について）

・Jamboardを活用することで、友達と協力してマスのイベントを考えたり、より良いマスのイベントを検討したりして、めあてを達成させることができた。友達が書いたものをすぐに見ることができるため、友達のものを参考にマスのイベントを考えることができた。

（1人1台端末の活用のねらい　イ　について）

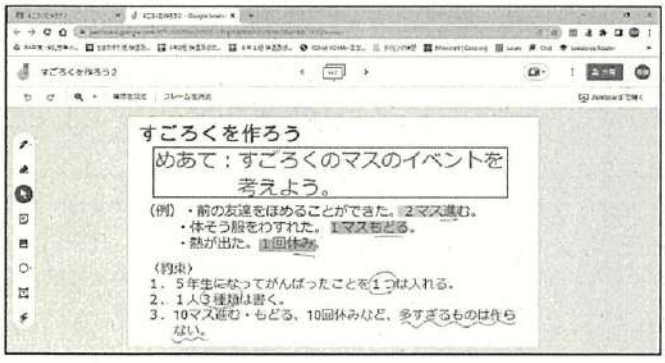
・付箋機能を使って色分けすることで、「何について書けばいいのか」が明確に分かり、書くことへの不安が少なくなった。マスのイベントの検討の時間に、色に分けて話し合いをすることも簡単にできた。

（1人1台端末の活用のねらい　ウ　について）

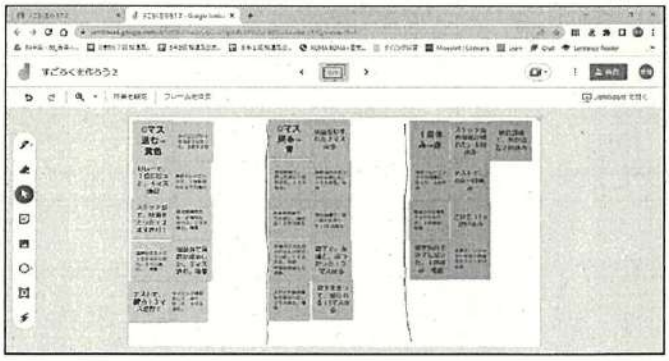
・プリントに文字を書いたり、書き直したりすることが苦手な児童が多いため、1人1台端末を活用することにより、活動意欲が出て集中して活動ができた。

7　授業の様子・ワークシート・児童の作品等

【Jamboard（めあて・約束の確認）】



【付箋機能（色分け）】



【スライド（振り返り）】

8　研究の成果（特別支援学級部会）

（1）　単元について

・ひまわり５組の算数科「線路づくり」とひまわり７組の自立活動「すごろくをつくろう」のどちらの単元も、タブレット端末を用いることで、活動に興味をもって取り組み、学習意欲を持続させることができた。

・タブレット端末の操作に慣れ、見通しをもって活動を行うことができたことで、最後まで課題と向き合うことができた。また、自己の学習活動を振り返ることにより、達成感を再認識することができ、自己肯定感を上げることにもつながった。

・書くことが苦手な児童の特性をふまえ、タブレット端末で図や言葉を表現したり試行錯誤したりすることで、活動に対する不安を取り除くことができた。

（2）　年間を通して

・タブレット端末を日頃から授業で使っているので、学年に応じた操作能力が身に付いた。

・タブレット端末での友達タイムで、話し合いが苦手な児童も、他の児童の考えのよさを共有することができた。

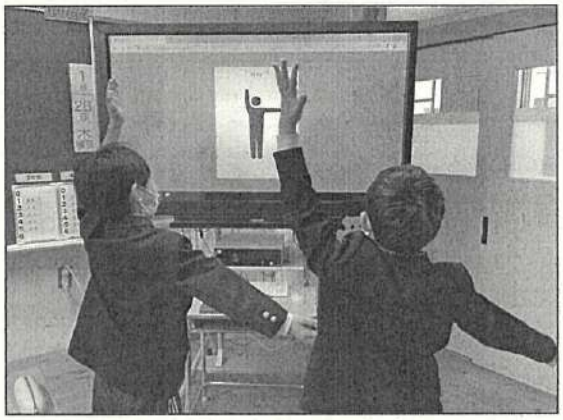
・個々の児童がタブレット端末のスキルをアップさせたことで、他の教科でも生かすことができるようになり、学習活動に広がりを持たせることができた。

9　今後の課題（特別支援学級部会）

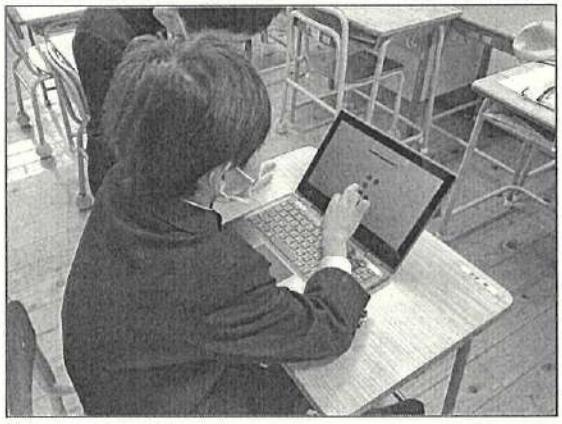
・特別支援の児童は、児童によってはタブレットの操作に不安がある。個別支援で操作を補助するが、友達タイムなどに参加することができない児童もいるので、どうしたらよいか。

・特別支援学級は、いろいろな特性や学年が入り交じるため、題材を見つけるのが難しい。

・児童の実態をふまえ個別学習でタブレット端末を用いることが多かったが、友達タイムなど、複数名で用いることが求められる。教師のタブレット端末の多様な活用のスキルアップが求められる。



【体のコントロール】



【視覚情報、処理速度】

研　究　同　人

令和4年度　校内研究指導講師

基山小学校　教頭　長野　篤志　先生
佐賀県教育庁学校教育課プロジェクトE推進室

校長 篠田　桂子　統括事務長 権藤　康裕
教頭 馬場　広城

【低学年部】		【中学年部】		【高学年部】	
林　さおり	1年1組 担　任	吉松　智子	3年1組 担　任	尼寺　公子	5年1組 担　任
久保　亜杜沙	1年2組 担　任	中島　絵梨夏	3年2組 担　任	小柳　浩貴	5年2組 担　任
福島　愛美	2年1組 担　任	金屋　雅弘	4年1組 担　任	小野　華恋	6年1組 担　任
森田　祐介	2年2組 担　任	宮園　奈緒	4年2組 担　任	中島　悠介	6年2組 担　任
久米　まゆみ	ひまわり1 担　任	久保山　孝子	ひまわり4 担　任	木原　秀徳	ひまわり7 担　任
森　千笑	ひまわり2 担　任	坂元　研太	ひまわり5 担　任	船津　勇二	ひまわり8 担　任
立石　さゆり	ひまわり3 担　任	岩下　道子	ひまわり6 担　任	古城　武史	教　務
中川　武	ICT担当	神尾　悦子	まなびの 教室担当	岡本　尚子	ことばの 教室担当
前原　恵理	級　外	中尾　美鈴	級　外		

初任者指導 髙尾　研吾
外国語専科 馬場　健太
養護教諭 木下　未来
主事 宮地　あかね
学校用務員 豊増　惣一
事務補 重松　良子

図書館司書補 廣瀬　晶子
ＡＬＴ ヴィクトル・アポンテ
生活指導補助員 德淵　祐紀子
生活指導補助員 牟田　靖江
生活指導補助員 高垣　智枝
生活指導補助員 田中　理仁
スクールサポートスタッフ 古澤　智子